



まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

もう1っ歩前に!

新しい年に向けて

まちネット寄居設立 10 周年を経て、早くも 3 年が経過、14 年目を迎えます。自分たちの暮らしの問題、課題を誰かに依存するのではなく、自分たちで考え、解決に向かって取り組んで行こう。また、そのために人と人を繋ぎ、その課題に主体的に積極的に取り組んで行く仲間を広げていこう、と活動してきました。

市民政治を広げていこう

課題解決の場として、生活に直結する政策決定の場である議会へ、私たちの生活の中の身近な声を伝えるネットの議員を送り出すことで、今まで見えなかった政治の場を、もっと身近なものにし、市民政治を広げていくことを目指してきました。

そういった意味で議会へネットの議員を送り出すことは、私たちの大きな目標でした。この 4 月の町議会選挙への挑戦をどうするか、昨年秋から、運営委員の間で検討を続けてきました。選挙への取り組みを、ネットの代理人、市民派

議員、ネットが支援できそうな既存、新人議員への支援をする、などなど色々な角度から議論をしてきました。

その結果、寄居町の選挙形態がこの 10 年で少し変化はあるものの、相変わらず、地元選出、地元応援型が優勢であること。だからこそ新しい民主的な手法の選挙をといた意見もあるものの、現実に議員を擁立できれば、大きな進展となり、今後の新しい選挙へ繋いでいける、といった現実路線で、可能性の高い手法を今回は選択できないかといった意見が大勢となりました。そこで、地域型も併用した、選挙の模索ができないか、その視点で候補者の選定をしています。ぎりぎりまで、この可能性に掛けていくことになりました。総会時には明確な報告ができると思います。



天変地異の続く昨今、国際的にも不穏な動きの報道が激化しています。中国、北朝鮮、韓国の脅威、また、いつ日本もテロにあうかわからない、自国を守るためとして、戦争放棄をうたった、日本国憲法第 9 条の見直しの動きとなってきました。この動きを加速するようなマスコミ報道には、愕然とします。個人化社会 は、社会的無関心 をつくる。社会的無関心 は、民主主義の目的=福祉社会 を亡ぼす。

個人の幸福は、社会によって左右される。そのことを忘れてはいけない。それなのに日本の教育は社会への関心を育てなかった。社会的無関心製造所。例えば「人権」は言葉ではなく事実の中にあり、戦ってみて、初めてわかるもの。 暉峻淑子

昨年 5 月に「つくっていく民主主義」と題して行われた、講演会での暉峻淑子さんの言葉です。マスコミに報道されない、普通に暮らしている、良識ある市民はたくさんいます。私たちのような市民活動がある限り希望は持てるもお話されていました。勇気と、元気をいただいた言葉です。さあ、今年もみんなで手をつなご!!

まちネット寄居代表 大北秀子

2014年、12月議会へ陳情書を提出しました

寄居町議会議長
稲山良文 様

件名 「再生可能エネルギーの普及促進、電力事業の自由化、送配電の仕組みを見直し原発ゼロへの転換に向けた意見書の提出」に関する陳情

要旨

1. 原発をベース電源としたエネルギー政策を転換し、できる限り早期の原発ゼロを政策目標として、その実行のため再生可能エネルギーの普及促進、電力事業の自由化、送配電の仕組みの見直しなどの政策化を図り、早急にその実行に取り組むことを求めます。
2. 上記 1 について、寄居町議会として衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣などへの意見書の提出を求めます。

理由

ここ寄居町にも放射能汚染をもたらした、東京電力福島第一原発事故発生から 3 年半が経過しましたが、いまだに事故収束に至らず、原因の究明も十分にはされていません。事故後、地震、津波対策は万全で、深刻な事故はおこり得ないといった「原発の安全神話」は崩れ去り、原子力発電を積極的に活用していこうとする日本のエネルギー政策に方向転換が迫られていました。しかしながら、2014 年 4 月に閣議決定された「エネルギー基本計画」においては、原発を重要なベースロード電源としており、原子力規制委員会は九州電力川内原発が新規制基準に適合していることを確認し、その設置変更を許可、再稼働に向けた動きを進めています。

寄居町議会では、2012 年 6 月議会において、省エネを推進し、自然エネルギーを積極的に活用した「自然エネルギー推進の町宣言」を行い、町としての強い決意を町民に示すとともに、全国に向けて発信されるよう 7 項目の事項を付して強く求めることを全員の賛成のもと決議しました。それを受けて町では「より E エコタウン推進の町」宣言がなされました。町民が誇りとするところの、この力強い寄居町議会の決議をさらに実効性あるものとして行くため、再度議会の意思表示として国への働きかけを求めるものです。

国に対して、できる限り早期の原発ゼロを政策目標として、原発の再稼働に反対し、原発をベースロード電源としたエネルギー政策を転換し、その目標達成のため、再生可能エネルギーの普及促進、電力事業の自由化、送配電の仕組みの見直しなどの政策化を図り、早急にその実行に取り組むことを求めます。

平成 26 年 11 月 18 日

まちネットワークよりい

この陳情書は、原発再稼働の波が勢いつく中、足元から、少しでも何らかの意思表示ができないかと、運営委員会で話し合い、11 月に入ってから、運営委員で作成しました。本来でしたら、ネット会員の皆様やたくさんの方の意志ある方の署名を集めることができればよかったのですが、12 月議会の請願・陳情書のめ切が迫っていたため、団体名での陳情書提出といたしました。



節電・笑エネワークショップ

うちの基本アンペアを見直してみませんか

12月9日、「小川町自然エネルギーファーム」の甲山さんによる「節電笑エネワークショップ」に参加した。自己紹介後、「節電紙芝居」を見せてもらい40年前より1世帯当たりの電力消費量が3倍近くにもなっていると知り大変驚いた。いつの間にこんなにたくさん電気を使うようになっていたんだろうか…。

あの頃大して困らず、普通に暮らしていたし、今もまた、普通と思って暮らしている。おかしい。自分の中で何か大切な感覚がマヒしているのでは？と問うてみた。その時々で、欲に任せて欲しい！便利！快適！と求め、必要電力が供給されて当たり前、どのようにそれが作られ供給されるかなんて意識は、正直3.11まで切羽詰ってなかった。（反省）

3, 11 以来、原発は NO!! 節電に対して意識をするようになったが、太陽光も金銭的に難しく、嫌だと思いつつもながらも既存の電力会社から供給するしかない。結局国や会社の方針に自分は何ができるの？と困惑していた。そんな中、「エネルギーを自給自足する社会を目指す」、「節電は最大の発電」というお話は嬉しかった。

家電の棚卸で、具体的に、普段ワット別どんな家電を使っているのか書き出してみると、改めてその多さに愕然とする。が、使用時間をコントロールすることによって、アンペアダウンできるという知恵もいただけた。「あれとこれは一緒に使わないこと、これとこれなら大丈夫！」気張らず楽しみながら電力の使い方を工夫していくことが、長続きのコツのようだ。害のない安全で未来の子どもたちに負の遺産を残さないエネルギーを使って生きていけるような社会が来ることを願って、日々の暮らし

の中、できる範囲で、自分の消費エネルギーについて考え、自分でコントロールしていくことを通して、少しでも自立した生き方を目指して行けたら…と思わされた。

（森屋美紀子）



エネルギー自給は たのしい節電から

NPO法人「おがわ町自然エネルギーファーム」(ONEF)の節電部会の甲山ゆみこさん(ときがわ町在住)を迎えて、出来立ての今市区民会館で行いました。

「原発のこと、放射能の事、不安な事とはなるべく離れていたい、聞きたくない、そんな多くの方にも「電気料金の節約」という、分かりやすい入り口から入って頂き、未来の子どもたちが、日本のエネルギー事情を誇れるようなそんな活動を目指しています。つらい節電・省エネではなく、賢く、楽しく取り組んで貰いたいと思います」という、子育て中の甲山さん。家庭での電気使用量3割ダウンを目標にした活動で、パルシステム埼玉(生協)の活動支援助成金も受けています。

まず、手作りの「節電紙芝居」を使っている、「そもそも電気とは？ 電気料金票の読み方 本当の節電とは？ どんな家電が多量の電気を使うか？」などのレクチャー。そのあと各家庭での「家電の棚卸し」は、

とても大切な作業。一人じゃなかなかできませんが、アドバイザーと仲間がいると大体の線が出てきます。もしかしたら契約アンペアダウンできるかも、とか、古い家電は取り替えたほうがお得かしら、とか、色々賢い節電のノウハウを学ぶうち、1時間半はすぐ終わってしまいました。

（伊藤泰子）



ワークショップで教わり、我が家の家電名とその消費電力を調べ始めて約1ヶ月。年末に入って中断したままだけれど、近いうちに再開して一覧表を完成させ、電力消費事情の“見える化”を実現したいと思っています。自分の暮らし方が、発電と電力消費にどのようにかかわっているのかを数値として知ることができるので、作業のやり甲斐もあり結果が楽しみです。日常的に使う家電のうち、一度に使う組み合わせは季節ごとに大体決まっているので、その合計消費電力の最大値から、契約アンペアをダウンできるかどうかを判断できるわけです。10アン

ペア(1000w分)下げると、基本料金が月に280円ほど安くなる。頻繁にブレーカーが落ちるのも避けたいので、もうちょっと節電に自信が持ててからダウンしよう・・・などと只今検討中。やはり、早寝早起が宵っ張りの我が家の大きな課題のようです。私たちは、自然界に何某かの負荷を与えながら生活しています。その“何某か”をたまには意識しながら文明の利器を賢く利用していきたいものです。ためになる楽しいワークショップでした。

(篠原由実子)

ひと言 言わせて 私の考える憲法前文

繰り返される天変地異、日常の出来事となった激烈な気象、私たちは、人を取り巻く外部世界の広さを感じながら、精一杯生きています。

他のあらゆる生命同様、食べ物を得、心地よい居場所を確保しようと、日々格闘します。生命とは、例外なく困難な境涯の中にあって、花開き、光放ち、集い、出会おうとする、いとおいしい者たちのことです。

私たちが国家を成すとは、寄り添なき世界に、生きる仲間が、互いに手を差し伸べ、むなしい思い、みじめな思いに沈む者を支え、集い、共同することです。

私たちは、ままならぬ、海、山、大地に寄宿しながら、国家、国民の末長い生存を可能ならしめるよう、人間同士の諸関係を律する倫理、私たちが世界環境と関わる上での作法を、出発の日に記し、憲法とします。

私たちの憲法は、国家、国民から、孤立、枯渇を遠ざけ、世界から祝福される、再出発のための約束です。

伊藤晃

第9回今しか聞けない戦争体験のお話

いつ、どこで歴史の流れは変わったのか

「戦時下の子どもたち~軍国少年・志願兵」について 寄居町在住の内野邦良さんをお迎えして運営委員5名でお話を聞きました。

「歴史を読むということは、単なる古きカレンダーの読み直しではない。いつ、どこで、歴史の流れが変わったのか、それなのに人びとはまったくその動きに気がつかなかった、ということ学ぶべきである。」というあるジャーナリストの言葉がある。歴史を知り今が「どの時点」なのかを注意深く見ていなければと思う。今回の「歴史」は内野さんの小中学生時代のお話である。

15歳で海軍に志願

内野さんは昭和4年生まれ。同年、世界経済恐慌が、2年後には満州事変が起こり、日本が戦争に向かって一段と大きく踏み込んだ時期である。幼い心にも「報道される日本軍の勝利が嬉しかった。」と聞き、恐ろしくなった。何を見て、見せられて、言われて、そう感じるようになったのだろうか？

小学校では「軍事訓練」が行われた。手榴弾を模した木製の球を50メートル先の標的に投げる、2メートルの高さの壁を乗り越える城壁訓練、10メートル長さの網の下を腹ばいでくぐり抜ける、ほふく前進訓練、15キロの俵を担いで歩くなど、すべてを生徒達に競わせたという。『世の中には「勝つか負けるか。物事はこのどちらかである。」という価値観しかないのだ!』と幼い子供達に思い込ませるには効果的な体験であったろう。

その後、昭和12年には日中戦争が、昭和16年には太平洋戦争

が始まる。少年にとって飛行機乗りはヒーローで、予科練(海軍飛行予科訓練生)の金の7つボタンの制服や潜水艦は憧れの的であった時代。内野さんも「お国の為に戦って、戦死した兄のかたき討ちをするぞ。」と思っていた。周りから言われたこともあり、早くしなければ戦争が終わってしまいそうだと感じ、昭和19年15歳で海軍に志願し、16歳で入隊した。海軍での生活は日本軍の劣勢は知らされない、上官の教育係の体罰という暴行、恐ろしかった米軍のB29爆撃戦闘機の飛来、と憧れとは違ったものだったようだ。

次の世代へ語り継ぐ

今、85歳になった内野さんに「戦争体験者の話をあなた達世代が若者に、下の世代につないでいてほしい。」と言われた。私にも責任があるのだと知り重く感じた。ご自身もクニちゃんと話しかけてくる近所の小学生に「戦争ってさ、人が死ぬんだよ。」と時に聞かせるという。

繰り返しになるが、2015年が歴史の「どの時点」なのか注意深く見て行きたい。新聞、テレビ、インターネット、アニメ、テレビドラマや映画からでも良いと思う。私にとって、知ったことから何をするかは難しい事だけれど、今、出来ることは油断なく眼を離さないこと。

(矢島京子)



戦争体験の話は好きじゃないけど・・・

「悲惨な」戦争体験の話を見聞きするたび、思います。

そりゃあ、大変だったでしょう。でも、どうして、そうなったんですか、どうして、そうならないようにできなかったんですか。昔の人は、しかたなかったのよ、って、いうでしょう。私の母（昭和8年生まれ）は、空襲の恐ろしさを語りながら「勝ってるうちにやめてればよかったのよね」って言ってました。勝っている＝ほかの国の人を殺している、ってことは、不問なのです。子どもながらに、不信を覚えました。

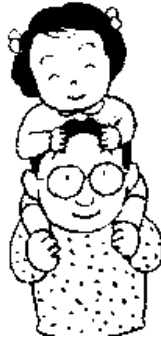
普通の人一人ひとりの力で

昭和4年（1929年）生まれの内野さんは、いわゆる「少国民」で、軍事教練が日常にある子供時代を過ごし、南京攻略のニュースに大喜びし、15歳の昭和19年に「お国のために」海軍少年兵に志願したという。そして敗戦。母と違うのは、戦前を教訓に、「だまされない」ために、何ができるのかと労働組合や地域自治の場で行動し続けたことでしょう。行政の下請け機関になっている町内会でも、「空気を読まず」発言する姿勢は、素晴らしいと思いました。

内野さんは特別、ではなく、3・11を経た今、戦争のない時代を作るのは、普通の一人一人の私たち、と思う人は増えているはず。農村や街の経済的な疲弊が侵略戦争を人々に支持させた「戦前」が取り戻されないよう、みんなで力を合わせられればいいなあ、と思います。

（伊藤泰子）

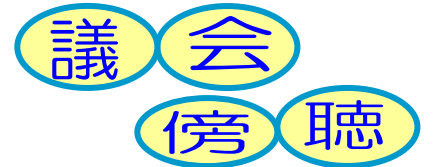
子どもたちにきちんと語り継がなくては...



情報はうのみしない

海軍志願兵の内野少年は、寄居駅前でリンゴ箱の上に乗し、「行って参ります」と200人を超す群衆を前に挨拶するのが精一杯だった。町長の音頭で「万歳！」という群衆の声を聞いた途端に涙が溢れてきた。今でも、そのときの情景を思い出すと目頭が熱くなるのお話に、こちらの方がジーンときてしまった。そうして兄の仇討ちを胸に秘めながら故郷をあとにし、生まれて初めて海を見たときには、死への恐怖はなかったそうだが、千葉の海軍基地に配属されて実際に砲撃の恐怖にさらされたときには、さすがに死の恐怖を感じ、本当に恐かったと当時を振り返られた。戦中の情報統制は異常であったとも。戦争は絶対にいけない。とにかくいけない。今の日本の雰囲気、開戦直前の空気に似て厭な感じがしてならないそうだ。情報は鵜呑みにせず、自分で考えて判断する知識を持つことが肝要という重いお言葉。こうした先輩方の忘れ得ぬ辛酸を無にすることのないよう、しっかりしなければ！と心に留めました。お話を下さり、ありがとうございました。

（篠原由実子）



2014.12月議会

町長の公約

2014.12月5日、第5回定例会初日を傍聴した。定例会は型通りに進められていく。開会後の諸報告の中で、まちネットの陳情書「再生可能エネルギーの普及促進、電力事業の自由化、送配電の仕組みを見直し、原発ゼロへの転換に向けた意見書の提出」に関する陳情が淡々と読み上げられた。陳情書は読み上げられるだけで終わってしまう。記録には残されても、いったいどのくらいの人たちの目に留まるのか。仕事の空き時間を見ながらの議会傍聴は、時間制限があり、わずかな時間帯のみとなる。改めてインターネット中継録画公開の実現に向けて働きかけたいと痛感する。

昨年8月の町長選の際に、町長報酬の削減を公約としていた花輪町長の「特例に関する条例の制定について」の案件が提出された。町長報酬は勝手には減額できず、条例の制定が必要とのこと。町長報酬の20%減額により周辺状況がどのようになるのか、といった質問や、やるなら全員の減額をといったいくつかの意見のやり取り後、可決された。約束は守るといった新町長の誠実さは伝わってきた。今後も単年度ごとに特例条例制定の案件を提出するという。そういえば、過去退職金はいらないと言っていた以前の町長の公約はどうなったのか。新体制になって少しずつ動き出しているようだが、議会傍聴者は私を含めて4人。議会への関心の低さは重傷だ。

（大北秀子）

お知らせ

継続します 家庭菜園講座



2015年1月の講座風景

小さな循環、人と人との出会いからコミュニティーの場をと呼び掛けて1年。毎回盛況となりました。今年度は、さらに食育、子育て支援の視点も加味しての企画です。

年間参加者募集中！

1. 家庭菜園講座

有機・無農薬の野菜作りを毎月1回、1年間通して学ぶ体験型連続講座。初心者大歓迎。ダンボールコンポストの生ごみ堆肥づくりなどを活用したプランター栽培から、本格的な畑作りまで幅広く体験できます。

2. 野菜の摘み取り体験

有機栽培農家の畑で、毎月1回、1年間通して季節野菜を摘み取る体験。(お一人または家族単位の申込み) 小さな子どもと一緒にの参加も歓迎です。

講座要綱 (1・2共通)

- 期日：平成27年4月19日(日)～平成28年3月20日(日) (全12回、毎月第3日曜日)
- 時間：午前10時～12時まで
- 場所：今市区内の農地
- 費用：年会費 1,200円 (種・苗・資材代など) 農具はお貸しします
- 当日参加費 (毎回) 500円 (収穫した野菜の持ち帰り有)
- **事前説明会と農地見学**
日時：3月29日(日)
時間：10時～11時30分
場所：男衾コミセン和室A
*説明終了後、農地見学へ
- 問合せ先：大北 (☎FAX582-4073)



落ち葉堆肥づくり



もみ殻燻炭づくり

木曜野菜市

2014年度、木曜野菜市事業の総売り上げは、経費等を差し引いて、64,574円となりました。大雪や猛暑にもめげず、たくさんの方々の力で、ネットの活動資金にすることができました。鈴木さん、増谷さん、大島さんほか関わってくださった方々に感謝！感謝！ありがとうございました。2015年度の活動がより豊かになっていこう、皆で取り組んで行きましよう。



まちネット寄居総会

期日：2月27日(金)
 時間：午後7時～9時30分
 会場：男衾コミセン会議室B
 1年に1度の総会です。今年度の活動計画、予算等のほか、いろいろな事話しませんか。お気軽にご参加ください。
 運営委員募集してまあ～す!!

弁護士、河合弘之氏のドキュメンタリー映画上映
「日本と原発」

とき：2月22日(日)
 14時(13時半開場)
 18時(17時半開場)
 各定員150名
 料金：1,000円(当日1,500円)
 会場：国立教育女性会館 (又エック) 大会議室
 主催：「日本と原発」比企上映実行委員会
 問合せ・予約 090-6506-7614 (中垣)

ネット会員募集中 いつでもどうぞ！

毎日の暮らしの中で、感じている不安、困っていることから出発。自分たちの足元から見つめ、話していきましょう。ぜひ、お仲間になってください。
 問合せ・・・大北 (582-4073)

編集後記

昨年12月の総選挙後、1党独裁に近い状況へと変わってしまった政治の場に、重い不安を抱きながらも、負けては行かない、まだまだ良識ある日本人はたくさんいるはずだと思います。おかしなことがまかり通る地域でも、それに声を上げることで、確実に変化は出てくる。さあ、焦ることなく、私たちの思いを着々と進めて行こう。
 (H.O)